

25/7/28 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 石垣・埋蔵文化財部会（第 67 回）

名古屋市民オンブズマンによるメモ

13:30

姫野保存整備課長：はじめる

所長より挨拶

渡辺所長：ご多用、酷暑の中出席ありがとうございます

オブザーバー小野様、尾崎様ありがとうございます

2つ 石垣保存方針策定

保存対策

姫野：出席者紹介 北垣、宮武、千田

（西形・梶原欠席）

小野（文化庁）

尾崎（愛知県）

教育委員会・名古屋城

写真・ビデオ撮影はこれまで

資料確認

ここからの進行は座長に一任

北垣：議事 2 点

まず 1 を説明お願い

名古屋城：前回 方針の構成

1 章 2 章、3 章 1 節

1 章 経緯と目的

目的 豪雨による崩落 熊本地震

2 節 方針の目的

天守台＋全体石垣

3 節 対象

近代も歴史的価値構成

近代擁壁 状況把握する

区分 悩んでいる 追加している

近代、現代石垣追加した

26 ページ 第4節 関連計画

保存活用計画＋植栽管理と重要文化財建造物等

2章 地理的環境

歴史的環境

3章 石垣履歴

2節目以降は次回以降諮る予定

部会指摘を受けて修正する

13:43

北垣：意見があれば

宮武：前回よりは整理された

1問1問

資料11-12

・近代に新設された石等

→石垣

・石壁等とは

→現代の石製の壁

塀？

建造物なので石垣ではない

石製の擁壁？

名古屋城：石のブロック

宮武：石の壁は埋蔵文化物ではない

北堀擁壁を含む？

もともと石垣がなかった

後付け？

名古屋城：そう

宮武：石垣があったことはない？

名古屋城：点線 尾張名勝図絵 石垣らしい絵

宮武：緑ではおかしい

名古屋城：現状では姿をとどめていない
滅失したものとする

宮武：最後の凡例 「現存しない」発掘調査していない
根石があるかも
「地上から現認できない」
ダブルスタンダード 明確に
地表上で見えているのはこれ
遺構として残っているかは別
近代と現代はいつか

名古屋城：太平洋戦争前後

宮武：離宮は関係ない？単純に太平洋戦争？

名古屋城：陸軍期、離宮期、戦前期

宮武：雁木範囲とは

名古屋城：大手馬出 雁木など
鶴の首状

宮武：なぜ雁木だけ同じくくりになっているのか
石製構造物 石垣片面構成

名古屋城：近世
赤も雁木も含む
「近世に築造された石垣と雁木」

宮武：近世石垣あった
地下に埋まっているのは遺構は現存している
歴史的 一切石垣存在しなかった
昭和に作ったのならそういうように
7 ページ 2 節 3 節
保存活用計画 近世石垣はどういう位置づけか

3 節 近代 「構成要素」 近世石垣に準じた扱い とは

名古屋城：石垣評価

宮武：近代と現代の境

離宮 準ずるのはわかる

太平洋戦争？

名古屋城：そう

宮武：それでいいのか

現代擁壁 状況の把握を行う。

取り扱い基準ではない

どう扱う気か

名古屋城：現代 保存方針 対象としない

導線の近く

宮武：対象としないならそう書くしかない

「把握します」ではバランスがおかしい

・近世生命終わった瞬間

・離宮 特異

近代、現代でいいのか

13：55

北垣：ほかに

千田：保存策定対象石垣 相当重要

保存活用計画 本質的価値を把握しているかを受けて

どこまでが文化財として守っていくのか

近代、現代のもの 国の特別史跡指定理由 それが評価されているのではない

全部取るんだ？難しい

本質的価値 明確にしないと

11-12 現代石壁等 御深井丸 もともと石垣？

石垣 壁上を取り出して石壁という必要はない

石垣等とすればよい
どうしても壁と書かないといけない理由はない

北垣：事務局

名古屋城：修正したい

千田：泥縄ではあるが、宮内省 どう位置づけるか 重要
本丸御殿復元 「離宮時代は無視する」
名古屋城歴史 離宮重要なら、石垣は保護の対象としては
非常に難しい
名古屋城正門 枳形から変わっている
本丸南馬出 離宮時代 陛下の馬車が通りにくい
石垣崩した
本丸南馬出 現状維持？
保存活用計画 重要な要の場所 「直していく」と記載
離宮時代どう考えるか 相当考えないと矛盾
離宮時代は大事だが、軍隊は大事？
近代、現代 で済むか？
どう価値づけをするか
保存活用計画では明確になっていなかった

宮武：根幹のところを言っていた
保存活用計画 平成 30 年 事務局は生き残りは 1 人もいない
石垣部会に全く諮らなかった
ねじ込んで親委員会に言った
石垣 保全方針駆け込みでやった
全体の時代 これからわれわれが作る方針で逆リードしないといけない
それぞれ 廃城後議論少ない
熊本城はやった 血みどろの議論
修復する過程 どれを優先するか「西南戦争まで」
別の歴史をたどっている名古屋 これから作っていかないと
将来的 いじるにもどうするか
特別史跡名古屋城の価値 城郭の本来のグランドプラン
私見 城そのものの生命が反映
ぶっ潰して別の機能 名古屋城を語るものではない

二条城は別
「離宮だからもともとの名古屋城の売りの馬出をつぶしてもしようがない？」

曖昧にしない

北垣：他には

千田：名古屋城 文化庁フォーマット 石柱は立っているか？
恩賜名古屋城跡

名古屋城：文化庁の石柱はない

千田：元離宮はある 特別史跡はない
ある時期 離宮は大きなことだった？宮内省が言った？
二条城にもある
どう考えるか
名古屋城として城跡として国の特別史跡
離宮時代が中心はバランスを欠く
石碑を立てないと
文化庁の義務 義務違反がばれた

北垣：大変重要な意見をいただいている さらにあるか
いろいろ事務局案 11-12 一覧を見ている
特別史跡名古屋城としての曲輪の骨格の問題
時代区分の問題 大切なんだ
各地の具体的事例を挙げている
凡例では難しいと理解できただろう
近世、近代区分の仕方 城郭時代という位置づけもある

名古屋城：様々なご指摘ありがとう
次回に向けて履歴 修復まとめている
どうあるべきか議論したい

北垣：補足は

宮武：難しい話

石垣だけではない

城郭 動物園、遊園地 様々な要素乗っかっている

世界遺産 形と時代 継続性 拡大解釈されていないか

江戸時代動物園ない

小田原城 現状変更認められない 動物園なくなったのは3年前

あれが懐かしい 郷土文化館

和歌山、丸亀

城とは関係がない

天下の名古屋城 ぶれないでほしい

石垣方針の土台

ダブルスタンダードにならない

全国的な傾向に問題

千田：第3節 近代石垣明確化

図1-5 図で表現できるもの 色の塗り分けに反映

改変どう評価するか

戦後の石垣

北垣：名古屋市としてどういう方針を立てるか 課題

10分休憩

14時25分再開

14:17

14:25

北垣：はじめる 天守台及び周辺石垣

名古屋城：説明する

現況 U66 S10

M区 根石から積み替えられた可能性

I区 セットバック

石垣面 勾配を中心

濃尾地震崩れた トレンチ

5ページ 94m基準

輪取り端部の勾配 3ページ、6ページ

160m付近ふくらみ

70度共通点

8 ページ目 U 6 6 S I O

S I O 前面①

S I O の背面②

②の北M区周辺 ③ ①②同様

M区以北 一部ふくらみ 観覧者動線ではない 経過観察

南側 ⑤ 積みなおし以外 動線 経過観察

名古屋城：2 章説明 9 ページ

(1) 応急的措置

避難誘導、危険性の明示、表面の保護

(2) 部分補修

U 6 5 と同様

(3) 部分補強

布団籠 押さえ盛り土

(4) 解体修理

11 ページ 保存と復旧の方法

(1) 安全対策の対象

短期・中期

・早期の地震対策

・来場者安全対策最優先

長期：恒久的、景観に配慮

U 6 6 . S I O 鵜の首

短期・中期的な対策を目指す

現天守閣解体工事、

S I O , U 6 6

土嚢養生したうえで軽量盛り土

期間がかかる見込み

今回の短期的対策を

仮設物は残置

石垣の保存と復旧の方法の選定

・遺構の保存に影響がないように

・誤解を与えない

・可逆的な工法

石材補修・間詰石の補充の上、布団籠

危険性の明示を

(4) 今年度 S I O 地盤調査

石材補修・間詰石の補充による保存対策 付議する

14:42

北垣：意見を

千田：これまでの会議

鵜の首 保全対策を取ろう趣旨提案

この部分 安定性を欠いている証明はどういう手順か

名古屋城：安定性を欠いている

U66 傾斜確認 それほどではない

発掘調査 S10 根石と想定 セットバックして積まれている

U66 M区 根石の下に瓦層 近世段階で根石 危険だろう

積み替えも複数回 証明 構造的にはできていない

名古屋城の中でも優先すべき

千田：近年いろんな城 石垣の安定性 大きな命題

平時往時 様々な議論 完全に解決 文化財石垣は難しいのが実情

この石垣 本丸に面した部分 一部試掘 根石据え方しっかりしていない

外側鵜の首 セットバックして石垣積んでいる

外形的にはそう 石垣の勾配 内面は変形していない

鵜の首外側 石垣そのものが弱くなっている？考えていいか

本当にそう言っているのかな

動線 見学路の横 「石塁型」 地震時脆弱 崩落心配

本当に脆弱と言っているのか

宮武：整理 勾配角度 外観上

複数環取り 災害、場当たりの修理

結論 石垣補修勾配変化ではなく、築城段階設計

曲輪付け替え アウトライン 形成過程でこうなっている

4メートル以下 70度

上だけが暴れている

濃尾地震 伸びていく勾配 引っ込んでいる 外観上危うい

「石垣としては安定している」理解

足回り 根石が不安定 座っているかどうか

トレンチ調査を見る限り 欠落 布団籠を置く？総体として安定？

千田先生 動線との絡み

過半は安定

おそらく全国で一時保全している事例はない

「石垣の上に人が立つ」

他は前に襲ってくる

選択肢は絞られる

小田原城 天端から3メートル完全崩壊

本丸南西角 6メートルくらい滑落

上に人が立っていればそうなる

面だけをどうこう

ネット 頭に当たらないよう

人が立っているところどうするか

外側ののり面 この石垣は名古屋城時代？そうじゃない

休憩前の議論 明治以降の石垣 離宮と関係ない

明治の石垣

残したまま 特別史跡を構成する要素？

立っている人の生命をどうするか

超越して大事 不安定な要素が強い 最大優先

最悪の選択

石垣 内側は担保できても外側は担保できない

組み込んで議論を

名古屋城：しりよく線と円弧滑り

大地震時 前押さえをどれくらいすれば安定と言えるか

宮武：これから？

名古屋城：これから 布団籠がベター

宮武：熊本 発災状況のダメージ

天端が沈下

布団籠は下を抑える 上に立っている人はやられる

石垣全体が滑ることはない

全部を覆っちゃうという乱暴なはなし

災害復旧 積極的に踏み込んで完璧な状態に戻すのか

軽々に石垣を解体すべきではない

場合によっては違う 踏み込むか議論を

千田：平常時と地震時で安全性があるかつかむ

どうのように安定性を欠いているか

どうか聞いた

宮武先生お話 地震時石垣崩れる 下からというよりは上から崩れる

・根石原因 根元を抑えればいい

・石塁 客を入れない 崩壊とのバランス

ここを通したいのなら、盛り土、蛇籠で目的達成できるか

垂直示力線、円弧滑り 相当厳しい結果が出る

短期的な対策で客を通せるのか？心配

通る 積みなおさざるを得ないなら、それしかない

☆堀底は人は通っていない

瞬時の落石を止めるのはネット

崩れても客は安全 地上に浮くような橋？

石垣の下を通る人の安全を確保する

宮武：一度事務局議論して

本当に人を通すのか

横に橋を架ける 木橋 動線を別に作っては

石垣修理やだ、安全性確保難しい

人を通すのは動線やばい

通さざるを得ないなら仮設橋を検討して

できるかどうかいろんな要素

下の石垣が崩れても上を通るとか

展示としてやっても検討して

名古屋城：いただきましたご意見

内部 鵜の首の西 橋を架けてみる

鵜の首の上 橋を架けるできるか雑談レベル検討

なかなか事例あまりない

熊本城補修 橋を架ける

こちらの場合 土塁どうするか

検討材料が多い

短期・中期・長期 そういったことは長期的

土塁 技術的に通せないか

通路の安全性高める 中期的なところ 動線を確保できないか
消防用タンク車 北まで通る道ここしかない
なんとか押さえて安全性を高められないか

千田：検討している

現状 熊本城 文化庁示した基準 垂直示力線 安定度解析
上を人が通って大丈夫 平常時・地震時 確保できる 証明できれば
短期・長期 とりあえずしのぐ あり得る
はっきりしていない段階で、下に石を積んで中期 いかないのではないか
結果が出て「大丈夫だ」朗報
押さえきれないのだと、名古屋市としては逃げ場がない
蛇籠積んでも上が危ない 分かっている人を入れていた
行政的によいことにならない
結果をセットでないといいにくい

名古屋城：示力線や円弧滑り

示力線、円弧滑りを満足
今までより安定性が高まる
検討している 計算している

宮武：石垣単体石 固定されてない

今日的課題 唐石積み 解析やっている最中
構造物全体 面として維持できるか
ばらばら栗、土 築石 解析 計算上成立しない
実験、西形先生の指導 下部構造 上部構造安定できるか
今の計算 多分上半分は出ない
文化庁の指針 石垣の上を歩くという指針にはなっていない
安定性 出せるか
行政として「大丈夫」と出せないのに人を歩かせるのか
ストーリーを踏まえて議論
大丈夫だという結論は出せない

北垣：伝統技術の話とは外れる

本質的価値 伝統技術としての石垣
伝統技術とはなにか あらためて伝統技術をする人、西形先生
支持力 現代工法の中で言われている話

伝統技術 類似の技術はある
名古屋城にもある 構造的に言うと、のり勾配 直角三角形の斜辺
のり返し勾配 伝統技術 成り立ち 発展していった
見学者がいることで、大変な被害を被る あってはならない
その一方 支持力 のり返し勾配 大坂城極めて近い
一方ではしてもらう必要がある
伝統技術やってきている
はい答えが出ましたよではない
しっかりした検討をしていく必要がある
工学的な検討 極めて大切になっている
伝統技術 あらためてしっかり検討する必要があるのでは

名古屋城：目標をどこに定めるか
「絶対崩れない」はできない
これくらいの地震でも崩れない
これくらい積んで上はどうなのか 次回資料を作りたい

宮武：くどいよう
城郭の石垣の履歴
1回やられたところは何回でもやられている
明治やられている ウィークポイント
全国解体修理
明治大正 構造物としての矮小化 石材再利用 小型化
その時代に直された
築城時ではなく、何回か崩落 技術停滞 素材も悪い
控えの長さもわからない
栗の大きさ、密もわからない
そうとうダメージ その上を歩かせる 怖い
1回崩れている
他の事例 決して安定したものではない 見る分ではいい

北垣：ありがとう

千田：今日は結論を出さなくて議論でいいか
出しようがない
安定性の証明がない 結論を出せない

M調査区 根石レベル積みなおし 安定性を欠く

鵜の首

Mは鵜の首ではない

V 築城期安定

M根石不安定 蛇籠どこからどこまで

別のところの弱いところ 鵜の首？説明としてきれいではない

資料8ページ ④ 経過観察で済ませよう

大天守西側 もう一つ小天守作ろう 石列 y,z

名古屋城跡としては、研究センター発掘成果

ここのところを見ていただくことで、創設期 本丸どうするか
職人悩んだ こここそ多くの人に見てもらいたい 重要なところ

天守が現状でも木造で復元されても重要

「観覧者動線ではない」調査成果を生かさずまとめるのはいかなものか
国の補助金いただいた調査 市民国民に成果を示せるか

文化庁も現状変更許可を出したのだと思う

④記載をあらためてほしい

宮武：ネタのあるものはどんどん出して

「事例がない」 こだわる必要がない

山口県 江戸中後期 新田開発 水門保全しよう

石垣何回も崩れた

現在も生きている 布団籠はおろか、水面に何も入れられない

堰自体洪水誘発

石垣周辺に何も置けない

設計 金属製フレームで覆う

不安定部分

崩れても石垣落ちないように 上からガボンと抑える

土橋みたいにフレーム

ローマあたりでやっている

紀元前、紀元後

よりよいテクニックがあれば差し替える

石垣水路 山口市がやった

ほかにも知恵が出るのでは

北垣：現代工法も活かす 紹介された

名古屋城特別史跡としての石垣遺構 どう保全していくか

前提にいろいろご検討いただきたい
ほかに関連してあるか

千田：資料2 7枚目

オルソ図

濃尾地震後に積みなおし

下 積み直し

右 積みなおし範囲（時期不明）

築石 陶管 1891 年前？

石垣そのものの来歴 どう理解するか

陶管 読み解きがベストなのか？

陶管 回りに切り込み？

基礎材料に

名古屋城：天端近く 明確な線が入れづらい

濃尾震災前？再検討が必要

近代？ 全体的な話

北垣：ありがとう

千田：近代 濃尾地震以降 大規模な積み直し

内面構造 不整合が生じている可能性

元の石を割って1人で持ち上げた？

結果として控え長短い可能性

修理歴のある石垣をどう修理していくか

北垣：具体的で、オルソ図作っても、それぞれの形状

仮に解体 崩壊

石垣は構造体でできている

内径している 伝統技術として確認する必要がある

他の事例たくさんある

別件あるか

15：35

宮武：固めていった石垣方針 スケジュールも含めて

全体にかける 承認する

そこがゴール 年度内までに納めるのか

名古屋城：スケジュールとしては年度内

次回に履歴 10 月ごろ諮る

それに対する対策 2 月議論

まとまれば全体に諮る こういう方針

こちらの件 スケジュール的に厳しい 延長前提ではわれわれ動けない

全体の計画、方針がないと個別のことは難しい

全体を定めたい

宮武：あと何回部会をやって、親委員会何回か

鶴の首取扱い

近現代 どう扱うのか はじめて明確に

1 回の全体、2－3 回中身の議論で納められない

何回か議論を詰めて、もう少し見直すべき

次回出ても方針ができるとは思えない

あてはめてスケジュールを

北垣：事務局として

名古屋城：次回石垣保存方針 履歴まとめる

宮武：中で議論して持ち帰って

出来上がった方針と既存の保存活用計画 どう位置づけるか

裏話話した

整合しない可能性がある

すり合わせはどう考えるか

名古屋城：計画を立てる 活用計画も

あまり石垣書いていないのが正直

宮武：もっけの幸い？

名古屋城：対立するものではなく、よいものを

宮武：どう位置づけ

全体でもやらないと、担当かわったときどちらを優先するか
方針に即して細則
計画の見直しはおおごと
名古屋城憲法の不備
全部ひっくるめて年度内はかなり大変

名古屋城：ありがとう

北垣：今日の話 だいたいこういうこと
具体的検討 含まれる
慎重にご検討を
だいたい意見が出た
最後オブザーバー 県

尾崎：説明ありがとう
石垣修理対策方針決める 前もそう
数回では決まらない 議論を重ねないと定まらない
まずは意見を基に次回部会に臨んで

北垣：最後全体総括

小野：発言機会ありがとう
今年度から担当 前回オンライン参加
はじめて現場に来れた
保存と活用 先生、事務局ご尽力 文化庁からも厚く御礼
議論 感想ベース
1) 石垣保存方針策定 資料確認
気づいた点 7 ページ 2 節 方針の目的が書いてある
策定の目的？
最後文末 2 行目 「保存管理方法」
1 ページ 目次案 方針 5 章
保存の方針 3 節 活用
管理が落ちている
保存・管理 章立て？
石垣の何についての策定？アウトプット？
5 章紐づいて

個別の地区、場所 整備

この方針 よって立つもの 位置づけ

計画の石垣扱い 大きく書いてある

現状 築城時からの変遷 離宮、陸軍期 価値の一部

構成 近世、近代

11, 12 ページ 凡例 きちんと保存活用計画とリンクすべき

2) 天守台及び周辺保存対策

鵜の首どうすればよいか 活発な議論

刺激を受けた

かなり前提条件 与件 整理しないと

車両を通す通さない 次のステップに進まない

与件を排除 車を通らない場合 人を通らない場合

ありとあらゆる選択肢 何らかの措置？

将来手がける 現状変更の理由で求められる

「なんか危ないと思ったので」

どういう理由か

- ・ 車両

- ・ 人

すべての検討をしたうえでこういう変更をしないといけない 必要

説明して頂かないと許可は通らない

検討プロセスの整理が必要

巨大な城郭 今後念頭

- ・ 保存上の手当て

- ・ 公開・活用上の手当て

混在させないような整理が必要

多岐にわたるご議論勉強になった

北垣：小野調査官ありがとう

今日の議題 事務局として検討した材料

ご検討を

事務局にお返し

姫野：北垣座長ありがとう

工事 事務局から報告

名古屋城：U65 天端石 1 石失われている

新補石材で補う

姫野：報告だった

最後に一言 ご助言活かしたい

以上で終わり ありがとう

15：52